

○事業所名	はるの園（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和7年10月10日		～ 令和7年11月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	69名	(回答者数) 54名
○従業者評価実施期間	令和7年9月25日		～ 令和7年10月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 18名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の利用について、保護者に対して丁寧な説明を行っている。	分かりやすく丁寧な説明を心がけ、保護者の疑問や不安な気持ちに寄り添う姿勢を持って対応している。	保護者の気持ちに寄り添う姿勢を継続しながら、疑問や不安を伝えやすい雰囲気を作りともに考えていく。
2	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、共通理解や共感的支援ができています。	日々の連絡帳や親子日、送迎時等に保護者の話を伺い、子どもの状況を共有したり、共感的に受け止めることで相談しやすい雰囲気を作っている。	親子日等で十分にお話が伺えない時は、積極的に面談のご案内をし、落ち着いた環境の中で、更に丁寧な支援を行っている。
3	子どもが通所を楽しみにしている。	子どもたちの一人ひとりの状況を理解し、共感的に接している。子どもたちが好きなこと、興味を持てることを意識し、活動内容を組み立てている。	引き続き、子どもたちや保護者の想いに寄り添った支援や魅力的な活動を実施していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スペースの確保と職員配置について。	個別対応が必要な時に、十分なスペースや人員が不足していると思われることがある。	引き続き様々な空間を最大限有効活用し、十分に発散できる、またはクールダウンできる場所を確保する。更に職員の連携を図り、必要な時、場面に職員を配置し、利用児が充実した時間を過ごせるようにしていく。
2	交流保育、きょうだい児支援、ペアレントトレーニング等の充実。	交流保育ときょうだい児支援については、感想からニーズの高さを感じた。クラスや年齢ごとに、対象の幅を広げたが、より多く実施を望まれる声もあった。保護者勉強会等も実施しているが、周知の方法や参加の対象等が課題である。	今年度実施した交流保育ときょうだい児支援の反省を生かし、今後対象や回数を広げていく。保護者勉強会については、今後も内容の充実と対象保護者を広げる等して広く周知していく。
3	事業所の取り組みや各種マニュアル等についての周知。	個別指導等の利用回数が少ないグループの方への周知が課題である。	ホームページやSNSで発信していることを周知し、各種マニュアル等についても丁寧に説明する機会を作り、閲覧できる環境を整理していく。